

主 題：恵みシリーズ16、あなたはサタンの子なのか？2

聖書箇所：ヨハネの福音書 8章41b節－47節

今日はヨハネの福音書8章41節の後半のところからみことばを見ていきます。私たちは数週間に亘ってこのヨハネ8章を学んでいます。主イエス・キリストは「信じた」と主張する者たちの信仰が本物でないことを彼らに語って来られました。なぜ、イエスはこのことを彼らに語り続けておられるのでしょうか？それは「救いはその人の永遠に関わることであり、死んでからではどんなに後悔しようと悔い改めようと、救いを得ることはできないから」です。救いはその人が生きている間にしなければならない最も大切な選択だからです。ですから、みことばを見ると、イエスは繰り返して罪人たちに救いへの招きを与えておられます。主イエス・キリストのみわざを目撃し、その教えを実際に耳にしたユダヤ人たちは「イエスを信じた」と言い、彼らはそのように告白はしていましたが、本当は救いに与っていませんでした。そこで主イエスは「救われていないことの証拠」を挙げて、この人たちを本当の救いへと導いておられます。そのことを私たちは繰り返して見て来ました。

なぜ、あなたがたは救われていないのか？三つの証拠を挙げられました。

A. 救いの必要性を感じていない 33節

「私たちは大丈夫だ」と言います。あなたがたはみな救いが必要だ、この罪から、罪ののろいから、永遠の滅びから自由にされることが必要なのだと、イエスはそのことを話されました。あなたがたには救いが必要だ、救われていないのはあなたがたがその必要性を感じていないことを明らかにすると言われます。

B. 罪を犯し続けている 34節

彼らは「信じた」と言う前と全く同じ生活をしていました。罪の中を歩み続けていたからです。

C. 主イエスへの敵対 37－47節

「信じるどころかわたしを殺そうとしている」と言われました。このような証拠をもって、イエスが「あなたがたは確かに告白はしているかもしれないが、本当は救われていない。あなたがたは本当の弟子ではない。」と話されたときに、このユダヤ人たちはイエスに反論します。

・ユダヤ人たちの反論（1）：「私たちの父はアブラハムです。」と。そこで、イエスは彼らの反論に対して、「いいえ、あなたがたの父はアブラハム？血筋からは確かにそうだが、霊的にはアブラハムの子ではない。」と言われます。アブラハムが神に対して為した信仰のみわざと、あなたがたがやっていることは全く相反するものだと言って、彼らの反論を斥けるのです。考えなければいけないことは、どうして彼らがこのように反論したのか？ということです。彼らは自分たちの父がアブラハムだということが自分たちの救いの根拠であったからです。「われわれはアブラハムの子孫だから、神がアブラハムを祝したように、私たちも同じように祝される。」と言います。「確かに、あなたがたは人間的に言うならアブラハムの子孫だが、あなたがたひとり一人は神と直接つながってなければいけない。肉体的に、民族的に、血筋的にそうかもしれないけれど、信仰においては、信仰の父アブラハムから見ると相反する者である。」とイエスは言われたのです。

すると、彼らはまた反論をします。それが今日見ていく47b節から記されています。

・ユダヤ人たちの反論（2）：47b節「彼らは言った。『私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちにひとり父、神があります。』と、これが彼らが行なった二つ目の反論です。彼らは「自分たちの聖さ」を主張するのです。「われわれは聖いのだ。不品行によって生まれたのではないから。」と。彼らは自分たち以外の人たちと自分たちを比較して自分たちの聖さを自負していたのです。というのは、この「不品行」とは「性的不道德」のことだからです。なぜ、彼らがこんなことを言ったの

か？彼らは恐らく異邦人と自分たちを比較したのでしょう。特に、サマリヤの人たちでしょう。異邦人の血が混ざっていて異教の影響を受けていたサマリヤ人と比べて、「私たちは聖いのです。異邦人の血は混ざっていません。われわれは彼らとは違って異教を受け入れていません。」と言います。

また、彼らはイエス・キリストのことを指してそのように言ったのかもしれませんが。イエスの誕生を覚えるとき、マリヤは聖霊によってみごもったのであってヨセフによってではなかった。ですから、彼らは「あなたはどのようなのですか？マリヤとヨセフの子でありながら…」と、確かに、神がマリヤを使ってイエスをこの世に送られたのですが、いろいろなことを考える人間はもしかするとそのような思いがあってイエスにそのように言ったのかもしれませんが。いずれにせよ、ユダヤ人たちが主張したことは、「われわれは周りの多くの人たちのように不品行によって生まれたのではない。われわれは聖い者たちだ。」ということです。

そこで主は、彼らの対応が本物の弟子でないこと、「聖い」といっている彼らが実は罪に汚れていること、救いに与っていないということを改めて教えるのです。今から、私たちはその四つの証拠を見っていきます。

3. 彼らがサタンの子である四つの証拠 42-47節

イエスはここで、「信じた」と言っているユダヤ人たちがどうして今でもサタンの子であるのか？そのことの四つの証拠を挙げています。言い変えると、これらがサタンの子の証拠であるということは、これらを見ることによって、神の子とはどういう人なのか？を見ることもできるということです。サタンの子である特徴を見ることによって、自分がそうでなければ、あなたは神の子どもだということです。皆さん、どちらかです。恐らく、信仰者である皆さんにとっても、自分自身の信仰を吟味するのに非常に役立つことだと思います。ですから、ぜひ、注意してご覧ください。

1) 主イエスを愛さないこと 42節

42節「イエスは言われた。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。」

1. 本当の弟子である証拠 : 主イエスを愛すること

それは「イエス・キリストを愛している」ことです。ご自分にぜひ問い掛けてみてください。「私は主イエス・キリストを心から愛しているかどうか？この世のいかなるものよりも愛しているかどうか？」と。神が父である人の条件をイエスはここで言われたのです。神が自分の父である人、つまり、クリスチャン、本当の弟子です。その人の条件がここに記されています。それは「...あなたがたはわたしを愛するはずです。」、「主を愛する」ということです。何ものよりも、自分よりも、イエスを愛しているかどうか？です。そのことをみことばは教えています。ヨハネ、ヤコブ、パウロ、また、ペテロはこのように言っています。

ヨハネ5：1：「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」、イエスを信じている者はだれでも生んでくださった方、救ってくださった方、つまり、神を愛する者であると言います。

ヤコブ2：5：「よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人々を選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。」、救われた者たち、御国を相続する者たちは神を愛すると言います。

ローマ8：28：「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」、神を愛する人々の説明をしています。

「すなわち、神のご計画に従って召された」、つまり、神が救いへと導かれた人々です。その人たちはパウロのことばに依るなら「神を愛する人々」だと言うのです。

ですから、ヨハネもヤコブもパウロもこのように、クリスチャンの特徴は「神を愛する者」だと言うのです。ペテロもそのことを教えています。

1ペテロ1：8：「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」と、彼も同じように、救われた人たち、本物の弟子の特徴は「神を愛する」と言います。

皆さん、思い出しませんか？ペテロが三度「イエス・キリストを知らない」と否定した後、主イエス・キリストはペテロの前に現われました。ヨハネの福音書21章に書かれています。

ヨハネ21：15, 16, 17：「彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」：16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」：17 イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいいさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」、大変な罪を犯してしまったペテロ、愛する主を三度も否んだのです。だからと言って、彼の中からイエスに対する愛が消えたのか？そうではなかったのです。非常にプライドが高く自信家だったペテロが神によって謙虚にされたのです。彼の心の中には神への愛は消えていなかったのです。彼の中には神への愛がありました。

ですから、救われている人は主イエス・キリストを心から愛している人です。イエスが自分にとって最も大切な存在であり、この方を傷つけることが私にとって一番辛いこと悲しいことだから、この方が喜ばれることを喜んでしていこうとします。私たち人間の間の愛でもそうでしょうか？愛する人の最善を為そうとします。愛する人を傷つけることは一番悲しいことです。神を愛する人は神が悲しまれることをしたくない、愛するゆえにこの方が喜ばれることをしていこうとします。

イエスはユダヤ人たちに言われます。「あなたがたの態度はそれとは全く異なるものである。」と。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。」、「あなたがたがわたしを愛していない現実を見るなら、あなたがたは救いに与っていない」と言われたのです。主イエスはご自分に関してこのように言われました。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。」と。イエスはご自分を神と同等にされています。救われた者たちは神を愛します。イエスはそのように言われました。もし、あなたがたが救われているなら「わたしを愛するはずだ」と。ですから、イエスはここで明確に、改めて、ご自分がだれであるかを言われたのです、「神だ」と。そして、その証拠を挙げておられます。

2. イエスが神である理由

a. 主イエスは父なる神とともにおられたお方

42節には続いて「なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。」とあります。これは、イエスは父なる神とともにおられた方であると言っているのです。神のところから出て来たということは、イエスは神のところにおられたのです。思い出しませんか。ヨハネ1：1に「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」とあるとおりです。イエスが父なる神とともにおられたこと、だから、イエスは「わたしは神から出て来てここにいる」と言われたのです。

b. 主イエスは父なる神によってこの世に送られたお方

また、このようにも言われています。「わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。」、父なる神によってこの世に送られたお方であると言っています。父なる神がわたしをこの地上に送ったのだと。（a）で見たように、神とともにおられたことばが、人となってこの世に来てくださったのです。ヨハネ1：14「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見

た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」、だから、この方は「インマヌエル」と呼ばれたのです。マタイ 1：23 にイザヤ書 7：14 のみことばが引用されています。マタイ 1：23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。))、イザヤ 7：14 「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」、「インマヌエル」とは「神は私たちとともにおられる」という意味です。何を意味しているのでしょうか？創造主なる神が今私たち人間の中に来てくださって、私たちのうちに住んでくださった、人となられたということです。

イエスはそれを言われているのです。「わたしは神とともにいて、そして、わたしはこの世に遣わされた。人としてこの世に生まれたのだ。」と、人となられた神だということをイエスは言われたのです。「だから、あなたがたは神であるわたしを愛するどころか、殺そうとしている。それは救われている人の態度ではない。」と。

もう一箇所見てください。8：49 です。「イエスは答えられた。『わたしは悪霊につかれています。わたしは父を敬っています。しかしあなたがたは、わたしを卑しめています。』」とあります。この「卑しめる」ということばは「思い、ことば、行為で名誉を汚す、辱める」という意味があります。新約聖書に 7 回出て来ます。そのうちの 4 回は「辱める」と訳されており、1 回は「卑しめる」、この箇所です。また、他は「侮る」と「軽蔑する」が 1 回ずつです。ということは、このことばはユダヤ人たちがイエスに対して取った態度を表わしています。彼らは神である方を敬っていないのです。人としてこの世にお生まれになった方を敬っていない、却って、彼らはイエスを侮り、軽蔑し、そして、辱めている、これがあなたがたの態度でしょう、だから、救われていないとイエスは言われたのです。

2) 真理を理解できないこと 43-44 節

彼らが救われていない、サタンの子であることの証拠の二つ目にイエスが挙げられたのは、彼らが「真理を理解していない」ということです。43 節「あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。…」と、彼らはイエスが語っておられる真理を理解できていません。その理由がその後に記されています。「それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。」と、「耳を傾ける」とは「理解する、何かを行なう能力」という意味です。つまり、このユダヤ人たちはイエスの口から真理を聞いていたけれど、悲しいことに、彼らにはそれを理解する能力がないのです。イエスの語られる真理を聞いても聞いてもそれを理解するだけの力がないと。

だから、皆さん、救われている皆さんは福音のメッセージを耳にすると喜ぶはずですが、感謝されるはずですが、イエス・キリストがあなたのために死んでよみがえってくださった、そして、救いを完成してくださったと。でも、みなが感謝するわけではありません。パウロが言うとおりの「生まれながらの人間は、

神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。」(1 コリント 2：14) と、ある人たちはこの神の救いを聞いても愚かなこととしか思えない、イエスの十字架のことを聞いてもそれに感謝をささげることもないと。

Ⅱ テモテ 3：7 を見てください。テモテ第二の手紙はパウロの遺言だと言われていますが、3 章では「終わりの日」について語っています。どんなことが起こるのか？を書いています。3：1 に「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。」とあります。そのように記したパウロですが、3：7 に「いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない者たちです。」とあります。救われていない人の特徴です。終わりのときは大変な時代になるということが 3：2 からずっと語られています。そして、どんどん悪がはびこって、3：5 「見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。」とあり、このような人たちを避けなさい、自称キリスト者が出て来て多くの人たちを惑わします。6-7 節「こういう人々の中には、家々に入り込み、愚かな女たちをたぶらかしている者がいま

す。その女たちは、さまざまの情欲に引き回されて罪に罪を重ね、：7 いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない者たちです。」、彼らは人々を惑わし続け人々が罪に陥ることを率先して行なっていると言います。救われていない人の特徴は「いつも学んではいるが、いつになっても真理を知ることのできない」とあります。

＊「真理を知る」とは「救われる」ということ

みことばが教えることを整理するということです。ある人たちは真理を聞いてもそれを理解する力がない、その能力がない、彼らにはこのすばらしい救いも愚かなことに思える。彼らは学んではいるけれど、いつになっても真理を知ることがない。なぜ、このようなことが記されているのか？では、真理を知っている皆さんがその人たちに比べてIQが高いのでしょうか？違います。

では、なぜ、あなたは真理を知り、ある人たちは真理を知らないのか？なぜ、あなたは真理を喜び、彼らは真理を愚かなこととして斥けるのか？それはすべて「神の助けによって為されたみわざだ」ということです。今、あなたがこうして本当の真理を知ることができたのは、理解することができたのは、神ご自身があなたを助けてくださったからです。残念ながら、生まれながらの人間はだれも自分の能力で神の真理を知ることにはできないのです。ですから、先ほど見た1コリント2：14の後半には「**また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。**」とあり、つまり、神のことは神が明らかにしてくださるし、神がそれを悟らせてくださるとパウロは教えるのです。

パウロはこのことを言わんとしたのです。たとえば、私たちは日本語で会話するなら聞いている内容が理解できないわけではありません。言っていることばは理解できます。もし、外国語で話し始めると、何を言っているのか全然分からないとなります。でも、共通のことばをもって話をするなら言っていることは分かりますが、理解できているかどうかは結果によって明らかです。本当に心から理解できた人はその真理を喜び感謝します。福音のメッセージを聞いて「アーメン」と言っている人たちがいるけれど、愚かなことと思っている人たちもいるのです。語られている内容が理解できなかったのでしょうか？ある人たちはそれを聞いて感謝し、ある人たちは愚かなこととします。言われていることは分かったのです。でも、それを心から悟ることがなかったのです。なぜなら、「心から悟る」ということは神が為してくださるみわざだからです。聖霊なる神が働いてその悟りを与えてくださったから、私たちはそれを心から受け入れて感謝するものとなったのです。

ぜひ、そのことを覚えてください。私たちは救いに与っていない人に比べて優れているのではありません。神の一方的なあわれみによって、神が、この聞いて来た真理を悟ることができ真理を喜んで受け入れ、感謝する者へと生まれ変わらせてくださったのです。これが救いのみわざです。

では、そうでない人はどうでしょう？彼らも聞いています。言われている内容は頭で理解できます。そこには責任が生じます。そして、もし、真理を心から求めようとするなら、神はそれを明らかにしてください。もちろん、今見ているのは、神が働かなければ真理に至らないということです。同時に、人間には神のメッセージを聞いたときに、それに対するどのような選択をするのかという責任があります。ですから、皆さんに「イエス・キリストを信じなさい」と勧めるのです。

私たちは「主が働いてくださってこの真理を悟った人は救いに与りますが、悟っていない人は残念ながら救いに与りません。」とは言いません。確かに、それは聖書が教えていることです。そうして私たちは救われたのです。でも、みことばが教えるように、私たちはすべての人に神に代わって懇願するのです。「この救いを受け入れなさい」と。ですから、神のみわざと人間の責任が常に表裏一体としてあるのです。「私はイエスを信じませんでしたが、その責任は神にあります。」とはだれも言えないのです。聞いたことに対してどのような選択をするのかという責任は聞いた者に生じているのです。聞いていなくても、神が造られた自然界を見るなら、そこに責任は生じるのです。このすべてを造られた神を受け入れるのかどうかという責任です。

しかし、確かに、みことばを見ると、クリスチャンであるあなたが、真理を喜んでいるあなたが今、そのことを喜んでいるのは、神があなたのうちに働いてその真理を悟らせてくださったからだと分かります。だから、私たちは神を心から誉め称えるのです。「感謝します、神さま」と。

もう一つ、パウロが繰り返して私たちに教えている今見て来たメッセージを頭に入れて44節を見てください。「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」、ここでイエスは彼らが真理を受け入れない理由として挙げているのは「サタンの妨げ」です。今、敢えて、この説明をしたのは、私たちの不信仰の責任をすべてサタンにもっていくことができないからです。皆さんにはみことばを聞いてそれを実践するかどうかという責任が生じました。それに従わないときに「サタンが悪いのです」とは言えないのです。それはあなた自身が決めることです。あなたの選択です。私たちはその両方を理解しておかなければいけません。

◎サタンの特徴

44節でイエスは確かに「サタンが妨げを為している」と言われています。サタンはどのような存在なのか？三つの特徴を挙げています。

(1) 初めから人殺し

アダムとエバに働いたのはサタンでした。サタンによって人類に死が持ち込まれました。肉体的な死であり、また、霊的な死が持ち込まれました。神はアダムとエバに対してこのように言われました。創世記2：16－17「神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。:17しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」と。自由意志を持っていたアダムとエバは、自らのその意志をもって誤った選択をしました。でも、そのようにそそのかして彼らが罪に至るようにと働いたのは確かにサタンでした。彼らが罪を犯すことによって、死が人類に入り込んだと。それが証拠に、同じ創世記3：19には罪を犯したアダムに対して、「あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」と、これは「肉体的な死」のことです。それまでは死がなかったのです。罪を犯すことによって肉体的に死ぬ者になったのです。

同時に、罪を犯すことによって霊的にも死んだのです。いのちの源である神との関係が罪によって切れてしまったために、霊的に死んだのです。だから、霊的に生き返ることが必要なのです。そして、皆さんはこの救いによって霊的に生き返ったのです。ローマ5：12に「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、—それというのも全人類が罪を犯したからです。」とあるとおりです。

ですから、主はこのように「サタンは人殺しである」と言われました。もしかすると、このことばの中にはカインがアベルを殺したことが含まれているかもしれません。アダムとエバから生まれた最初の子どもたちが何をしたのか？兄が弟を殺すということが起こりました。創世記4：1－9に記されています。「:1人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、【主】によってひとりの男子を得た」と言った。:2彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。:3ある時期になって、カインは、地の作物から【主】へのささげ物を持って来たが、:4アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。:5だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。:6そこで、【主】は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。:7あなたが正しく行っただけであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せて、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」:8しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼

を殺した。:9【主】はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないでしょうか。」。

ですから、このように、サタンは初めから人殺しである。死をもたらした。アダムとエバを殺したのはこのサタンだと。それでイエスはこのように言われました。

(2) 真理に立っていない

二つ目にサタンの特徴は「真理に立っていない」と書かれています。つまり、彼の中には真理がないということです。逆説的に見て、真理に立っている人とはどういう人でしょう？真理を知っているだけでなくその真理に従って生きている人です。その人が行なうことも語ることも真理です。まさに、この人は真理に立っている人だと。サタンは創造主なる神に対して罪を犯した時に、神の真理によってではなく、自分の思いに沿って生きることを決めました。思い出してください。サタンの最初の罪、いや、創造物の中で最初に犯した罪、それは、彼が「いと高き方のようになろう」と願ったことです。そして、それに基づいて行動するのです。すなわち、サタンが望んだことは、被造物でありながら、造られたものでありながら、造り主なる創造主なる神になろうとしたことです。そのように彼は決め、そして同時に決めたことは、真理である神に逆らう選択です。イザヤ書14：13、14に「:13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。:14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』」と書かれています。

真理である神に逆らい続けるために彼がしたことは「真理を捨てること」です。自分の思い通りに生きていこうとするなら、邪魔だからです。私たち被造物は神のみこころに沿って生きます。でも、それを止めてしまって自分の思い通りに生きたいと思ったら、その真理を捨てなければいけません。ですから、サタンはこうして真理に立っていないということを、彼のことばと行為をもって明らかにしました。もう一度、創世記3章のことを思い出してください。アダムとエバのことです。蛇を使ってサタンはこう言います。創世記3：1－5「:1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」、「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」と、そして、サタンは蛇を通してこう言います。「あなたがたは決して死にません。」と。そして、5節「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」と、サタンは巧妙に嘘をもって彼らが神に逆らうようにと働きしました。真理には立っていません。それが三つ目の特徴を表わします。

(3) 偽り者 : 最大の嘘つき

ヨハネ8：44の後半に「彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。」とあります。この「ふさわしい」とは「彼自身の本質に沿って」話しているということです。サタンが話していることは、サタン自身の特徴にもっともふさわしいと言います。彼は嘘つきだから彼が言うことは全部嘘だと。サタンがどんな存在なのかは彼自身のことばが明らかにしていると言います。彼は自分のことしか考えないし、自分の考えによって救われていない人たちを惑わし続けて、自分に従わせ続けようとしているのです。

この中でイエスを信じていない人がおられるなら、あなたを惑わし続けて、そして、あなたが永遠の滅びに至ることを望んでいるサタンは、そのために最善を尽くしています。サタンはあなたのことなど考えていません。もし、あなたのこと、あなたの幸いを考えるのなら、嘘から離れて真理に至りなさいと勧めるはずですが。サタンがしていることは何か？あなたが福音を聞き、救いのメッセージを聞いた時

に、あなたを惑わし続けて、間違ってもその救いに至らないようにと妨げ続けるのです。これがサタンです。だから、あなたの心の中にサタンは働き続けて、みことばを通して語られる真理に対して「これは真理ではない」と、そのようにしてサタンはあなたを騙し続けているのです。彼の関心は自分とともにあなたを地獄へと道連れにすることです。そのことしか考えていません。憎むべき存在です。この私たちの神の敵です。このサタンの存在を知れば、彼の目的を知れば知るほど、その悪に対して憎悪感が増して来ます。このような働きが今も為されている。イエスはそのことをご存じで、そして、そのことをユダヤ人たちに言われたのです。「あなたたちは真理が理解できない。悲しいことに、サタンがそれを惑わしている。」と、Ⅱコリント 4：4 にこのように書かれているとおりです。「**その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。**」

3) 真理を信じないこと 45, 46 節

彼らがサタンの子である証拠の三つ目は「真理を信じないこと」です。45－46 節「**45** しかし、このわたしは真理を話しているために、あなたがたはわたしを信じません。**46** あなたがたのうちだれか、わたしに罪があると責める者がいますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。」、今見て来たように、サタンは真理に従わないで逆らい続けるものです。ですから、サタンの子どもたちも同じ特性を兼ね備えています。サタンの子どもだから真理である神を信じようとしません。真理である神の語られた真理を受け入れないだけでなく、その真理に従うことをしないのです。自分自身の偽りの父に倣って嘘を信じ続けるのです。聖書を学んでも、そこに永遠のいのちがあることを知って学んでも、しかし、それでいながら、イエスは言われます。ヨハネ 5：39、40「**39** あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。**40** それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもつて来ようとはしません。」と。また、Ⅱテサロニケ 2：8－10 にはこのように書かれています。「**8** その時になると、不法の人が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。**9** 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、**10** また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。」と。

ですから、イエスは言われます。「真理を聞いていてもあなたがたはそれを理解できないだけではない。

あなたがたはその真理を信じようとしていない。そのことがあなたがたが救われていないことを明らかにしている。」と。しかし主は、46 節を見ると、このように非常に心が頑な彼らに対して招きを与えています。「なぜ、わたしを信じないのですか？わたしをご覧なさい。どんな罪を犯したと言うのですか？」と、ご自分が罪のないものであることを明らかにしました。サタンと全く反対です。イエスは真理を知っていただけではありません。イエスは真理そのものでした。偽りのサタンとは全く相反するものです。「そのわたしをなぜ信じないのか？」と問われているのです。

4) 神のことばに聞き従わない者 47 節

四つ目に挙げられているのは「あなたがたは神のことばに聞き従わない」ということです。47 節「**47** 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」、「神から出た者」とは神との関係を表わしています。その人は「神のことばを聞く」と言います。ですから、神の子どもであるかどうかはその人の行ないが証明するということです。

イエスはピラトとの会話の中でこのように言われました。ヨハネ 18：37「そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりです。」と、ご自分が王であること、神であることを否定していません。イエスは王であり神ですから当然です。「わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属す

る者はみな、わたしの声に聞き従います。」と、イエスが言われることは、「この真理を、わたしを受け入れる者たちは、別の言い方をすれば、本当の弟子たち、救いに与った者たちはそこに特徴がある。それはわたしの声に聞き従うことだ。」です。

アブラハムを見てもそうです。彼らは「私たちはアブラハムの子である」と言いましたが、イエスはそれを否定されました。なぜなら、アブラハムの信仰の行ないを見た時に、彼らはそれをやっていないからです。アブラハムの信仰は神への従順と信頼の行ないによって証明されました。私たちがすでに見て来たところです。だから、アブラハムは救われていたのです。彼が本当の弟子であること、救われていたことは彼の信仰の行ないが明らかにしたのです。

ヤコブはこう言います。ヤコブ書2：18「さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」と。2：21－24「:21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。:22 あなたの見てのとおり、彼の信仰は彼の行いとともに働いたのであり、信仰は行いによって全うされ、:23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。:24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。」。

また、ヘブル書11：8－10「:8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。」、11：17－19「:17 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。:18 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、:19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。」

イエスは「わたしを心から信じこの救いに与った者たち、神が救いへと導いた人たちは、そのことを行ないによって証明する。」と言われたのです。なぜなら、救いとは生まれ変わることです。救いとは神のみわざであり、その人を罪の中から救い出してくださることです。その人は神の栄光を現わすために生まれ変わったのです。その人はその生き方が当然変わるはずです。だから、変わっていない彼らに対してこう言うのです。「ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者ではないからです。わたしのことばに従って来ないということは、あなたがたが神によって救われた者ではないからだ。」と。口では「救われている」と言っていました。イエスはその心をご存じでした。そして、彼らに「あなたがたは救われていない」というその証拠を明らかにしたのです。

どのように生きているのか？どのように日々を過ごしているのか？主を愛するゆえに、その教えに何があっても従い、この偉大なお方にどんな時にも喜んで頂きたい、このすばらしい神を、この方の偉大さを人々に知って頂きたいと、そのような願いを持って生きているかどうかです。

イエスは「救われた者たちはそのように生きる者たちだ」と言われました。あなたはいかがですか？罪を犯すこともあるでしょう。ときに神から心が離れてしまうことがあるでしょう。しかし、救われている人たちの心の中にはこの神を愛する愛は決してなくならないのです。救われていること、神があなたを救ってくださったことは、神があなたを通して為されるみわざによって知ることができると思います。どうぞ、皆さんがご自分の信仰を吟味して下さって、「私はたとえ今日死んだとしても確実に主のみもとに上がる。なぜなら、主がこのような働きを私のうちに為してくださったから。私を確かに生まれ変わらせてくださったから。」と、それがあなたの証であること、それがあなたの確信であること、そのことを心から願っています。

《考えましょう》

1. ユダヤ人たちは、何を「救いの根拠」としていましたか？
2. 「信じた」ユダヤ人たちが、実は、救われていないとして主イエスが挙げられた理由を記してください。
3. 「神を愛する人」の特徴を挙げてください。
4. 「神に従うこと」によって罪人は救われるのでしょうか？ どうして「神に従うこと」が救われているかどうかの証拠なのでしょうか？